

令和元年度（2019年度）

肥後っ子いきいき読書環境づくり第2回講座

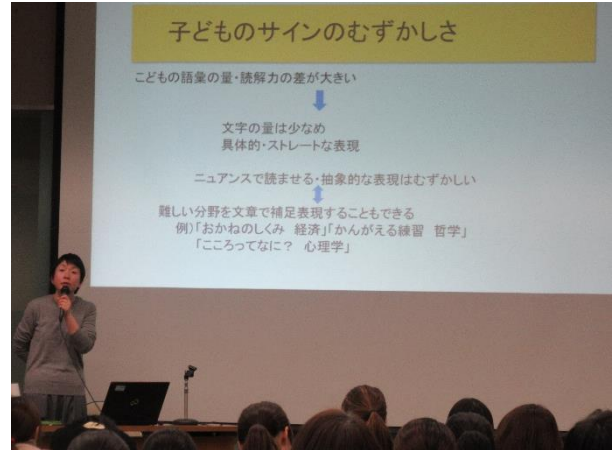
「好奇心をひろげる本棚に サインと配架を工夫しよう」



- 主催** 熊本県立図書館
- 期日** 令和元年12月9日（月）
13:30～16:00
- 会場** 熊本県立図書館3階大研修室
- 講師** 中川 卓美 氏（『サインはもっと自由につくる』（日本図書館協会）著者）
- 参加者** 104人
- 対象** 公共図書館職員、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校図書館職員
（司書・司書教諭を含む）

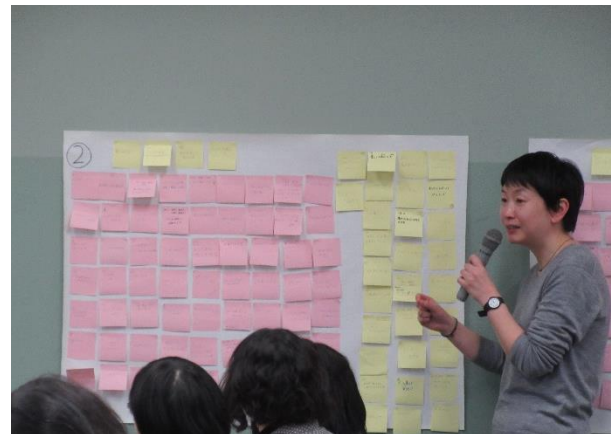
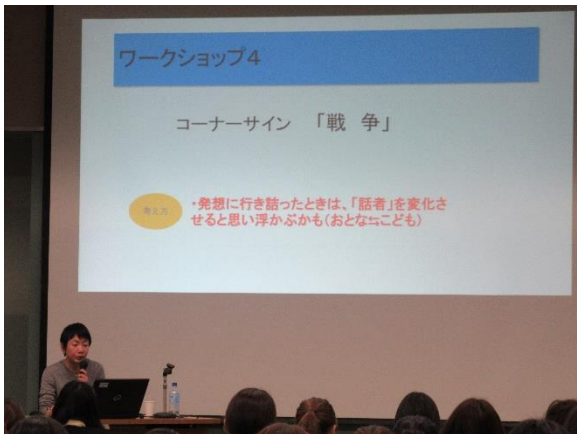
講話 「サインをもっと自由につくる」

サインはブラウジングしている人に主題を示しよびとめるもので、短文化したり抽象化したりするとわかりやすくなることを、講師が勤務された図書館等のサインの写真を紹介しながらお話しいただきました。子どものサインを考えるときのポイントや、差し込みサインの活用なども紹介していただきました。サインを考える際は、本を求める人の思い、背景にある物語に共感し、棚と人の関係をサインすることもお話しいただきました。



ワークショップ「サインの見出し語をつくってみよう」

サインづくりのコツを教えてください、①伝記 (28) ②盲導犬・聴導犬・介助犬 (補助犬) (369.2) ③災害・災害救助 (369.3) ④コーナーサイン「戦争」の4つの課題について、それぞれ3分間サインを考えた後、お気に入りのひとつを選んで付箋に書きました。その後、課題ごとに付箋を貼り付け、講師が紹介しながら参加者と共有し、希望する参加者は閉会後に写真を撮りました。



講話「NDCにこだわらない配架法」

講師が勤務された市町村合併後の図書館でリニューアルした際の、本の探しやすさのために工夫した配架法を紹介しながらお話しいただきました。動線を予測して配架の並びを変更したり、テーマで集めてコーナーをつくったりすることで、利用者の好奇心をひろげることができることをわかりやすくお話しいただきました。

参加者の感想（アンケートより一部抜粋）

- ・「サイン」は苦手だな…とと思っていましたが、ワークショップで考えてみると楽しく感じました。
色々思いついたらどんどんメモして、サインに活用しようと思います。（小学校）
- ・普段は一人での作業が多く、なかなか様々な視点でサインを考える時間が取れていなかったもので、とても貴重な時間になりました。（小学校）
- ・サインづくりを初めて体験しました。
好奇心が広がる棚の工夫について学ぶことができたので、学校図書館に活かしたいです。配架の並びについても変更した方がよいところがないか確認していきたいです。（中学校）
- ・とてもすばらしい講座でした。今日学んだことは明日から実践していきます。
自分自身のモチベーションもとても上がり明日から仕事が楽しみでなりません。
本当にありがとうございました。（中学校）
- ・今回のサインのつくり方で学んだことを、さっそく実践してみたいと思いました。
ありがとうございました。ワークショップも楽しかったです。（中学校）
- ・丁寧にサインと配架を教えていただき、とてもわかりやすかったです。
「自由な発想でサインを考える」というものは、大変驚きましたが、とても勉強になって良かったです。新しい視点での図書館づくりのアプローチを教えていただき、とてもためになりました。（高等学校）
- ・自分たちにも考えさせるワークショップがあつて、気持ちの切り替えもできました。
他の人の発想がとても面白かったです。（高等学校）
- ・『サインはもっと自由につくる』も拝読していましたが、中川先生のお話を聞いてより理解を深めることができました。まさか中川先生のお話を伺えるとは思ってなかったのでとても良かったです。（公共図書館）
- ・サイン、配架にいつも悩まされていましたが、自由な発想でいろんな本があることを知らせるということを工夫してみようと思いました。（公共図書館）